

教科目名 プロジェクト演習Ⅲ (Projected Exercise Ⅲ)

専攻名・学年 : 電気電子情報工学専攻 2年 (教育プログラム 第4学年 ○科目)

単位数など : 選択 1単位 (前期1コマ, 授業時間 23.25時間)

担当教員 : 徳尾健司

授業の概要			
情報通信分野における大学卒業レベルの専門科目の学力を確実に定着させるため、過去の大学院入試問題を取り上げ、演習を行う。対象分野は情報数学・離散数学、情報通信理論、計算機ソフトウェア、計算機ハードウェアとする。			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (B2), JABEE 目標 (d1⑥) (g)	
(1) 情報数学・離散数学の専門基礎力を身につけることができる。(課題と定期試験)			
(2) 情報通信理論の専門基礎力を身につけることができる。(課題と定期試験)			
(3) 計算機ソフトウェアの専門基礎力を身につけることができる。(課題と定期試験)			
(4) 計算機ハードウェアの専門基礎力を身につけることができる。(課題と定期試験)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
1 - 5 6 - 8	情報数学・離散数学 (集合論/代数系/ グラフ理論/記号論理) 情報通信理論 (情報量/情報源モデル/ 通信路容量/情報源符号化/通信路符 号化)	○演習書の各問題について、発表担当の学 生を指名する。各々の学生は授業時間外 に指示された問題を解いておくこと。解 答はレポート用紙にまとめ毎授業開始 時に提出するとともに、授業時間内に発 表する。	【理解の度合い】
9 - 11	計算機ソフトウェア (言語理論/数値 計算/ラグランジュ未定乗数法)	○学生の発表に対して内容の理解を問う 質問を行うので、演習書の解答ページの 丸写しをするのではなく、深く内容を理 解するように努めること。	
12 - 14	計算機ハードウェア (記号論理数学/ ブール代数/論理回路/順序回路/標本 化定理)	○定期試験は演習書の全問題の理解を問 うので、発表のために指示された問題だ けでなく、授業で扱った範囲の全ての問 題を解いておくこと。	
15	前期期末試験 前期期末試験の解答と解説		
履修上の注意	学生の発表に対して内容の理解を問う質問を行うので、演習書の解答ペ ージの丸写しをするのではなく、深く内容を理解するように努めるこ と。		【総合達成度】
教科書	関正治ほか、解法と演習 大学院入試問題—情報通信系, 数理工学社.		
参考図書	これまでに使用した専門科目の教科書等.		
自学上の注意	定期試験は演習書の全問題の理解を問うので、発表のために指示された 問題だけでなく、授業で扱った範囲の全ての問題を解いておくこと。		
関連科目	ディジタル回路 I, 電子回路設計, コンピュータ, 情報理論 (以上 E 科) 論理数学, 情報数学 I, 情報数学 II, 情報理論, 数値解析 I, 数値解析 II, ディジタル回路 I, ディジタル回路 II (以上 S 科)		
総合評価	達成目標の(1)~(4)について、定期試験と課題レポートで評価する。総 合評価 60 点以上を合格とする。 総合評価 = (定期試験)×0.7 + (課題レポートの平均)×0.3 再試験は実施しない。		